

JICA札幌

札幌市白石区本通16丁目南4番25号

新春文化塾 1月29日(土)

餅つき、茶道、日本舞踊

北方圏センター札幌国際センターが開いた、夏祭りなどと並ぶ年間4大行事の一つ。ブラジル、ガーナ、ケニアなど23カ国34人の北海道海外技術研修員やJICA研修員のほか、地元の白石東町内会連合会役員、白石東地区青少年育成委員会関係者、JICA札幌のボランティアなど合わせて約100人が参加した。

今年のテーマは「地域の人が研修員を楽しませる。地域の人が伝統文化を紹介する」。研修員は2班に分かれ、ロビーやラウンジなどで餅つき、茶道、日本舞踊のアトラクションを体験。餅つきでは、おいしく餅をつき上げるポイントの一つ、「相取り」の説明があり、白石東町内会連合会と白石東地区青少年育成委員会のメンバーが手ほどきして、交代で杵を振り下ろした。時折威勢の良い音が出ると、回りから盛大な拍手が沸いた。

茶道は、JICA札幌伝統文化教室の講師陣が担当し、作法のいろはを教授。研修員はとまどいと緊張の中で、初釜を「ちょうだいします」。

日舞は、正派若柳流香扇子会の4～10歳の児童が踊りを披露した後、若柳敬香さんから扇の開き方、回し方などの指南を受けた。



JICA帯広

帯広市西20条南6丁目1番地2

帯広氷まつりを楽しむ

1月28日(金)

この日は3日間のまつり期間の開幕日。その開会式に合わせて、JICA帯広の研修員21人が、会場の帯広市内の緑ヶ丘公園に足を運んだ。全員が、北方圏センター帯広国際センターが用意した防寒着や手袋を身に付けていたが、来帯したばかりでまだ寒さに慣れていないタンザニア、ガーナ、ドミニカ、フィリピンの研修員らは、やっぱり寒そう。それでも、すべての冰雪像が雪と氷で出来ていることを知って驚き、メインイベントの真冬の夜の花火大会に歓声を上げるなど、母国では味わえないフェスティバルを楽しんでいた。

